

最優秀賞	石楠花や 谷の底行く 飯田線	遊泉
優秀賞	花筏 寄りて離るる 淡き恋	ふる武
優秀賞	馥郁と 千種公園 百合香る	柘植 登志子
優秀賞	向日葵も 顔を背ける 陽射しかな	平野 弘
佳作	茶屋が坂 上り四葩の 花の海	キタロー
佳作	春蘭は ひっそり生きる 醜女花	岡部 倫子
佳作	白壁に 命ゆだねる 時計草	林 石根
佳作	ゆりの園 色香に酔ひて 時わすれ	佐藤 成子
	朝顔や 個性光りし 鉢の中	ゆったん
	来年の 再会祈る 桜の木	ゆったん
	疎々と咲く 塀をくぐりて 十葉	前島 千枝子
	小梅落つ やしろの楠の木 夏の音	前島 千枝子
	疎々と咲く 薄きむらさき 薊かな	前島 淑恵
	露草や 咲いて清々 見て涼し	前島 淑恵
	崖上の 長き黒塀 朴の花	遊泉
	朝八時 「行ってきます」と 朝顔と	柘植 雅一
	夕暮れに 夏惜しむよに タチアオイ	柘植 雅一
	落ちてなほ 気品を保つ 有楽かな	副松 勲
	菖蒲園 土手をゆっくり 車椅子	副松 勲
	アジサイの 森のごとくや 茶屋ヶ坂	高田 雅子
	千種区の アジサイ五千 茶屋ヶ坂	高田 雅子
	房垂れて 藤の花ほかは 目も呉れず	久木野 鉄次
	夏の夕 FBCの花に 水やる子等	久木野 鉄次
	向日葵は 慟哭の花 八月来	飯田 正幸
	手洗ひの マスクの雫 額の花	飯田 正幸
	紫陽花や 仁丹ほどの イヤリング	徳井 美弥子
	はかなげな 蟬の声聞く コワラかな	徳井 美弥子
	クレヨンのあか・しろ・きいろチューリップ	坂本 雅則
	神苑の日当たる雨後の四葩かな	坂本 雅則
	梅雨晴間コロナ太りとなりけり	木村 和風
	向日葵や 今朝の悩みを 吹き飛ばす	牧野 はつよ
	桜咲く 手話の子集ふ 真ん中に	牧野 はつよ
	紫陽花や 名刹ごとに 色変わり	鎌田 洋
	裏小路 鉄線絡む 竹矢来	鎌田 洋
	徘徊の父 木犀の香のたより	磐田 小

指揮棒の 降りた瞬間 花振るう	磐田 小
花万朶 参道あほる 日泰寺	小松 とみゑ
私より 頭垂れをり 百合の花	小松 とみゑ
花吹雪 帰る児童の 開く傘	ふる武
透かし百合 咲いて佐渡の香 思い出ず	香女
艶色を増し 梅雨に微笑む 紫陽花や	香女
雨宿り ロビーのばらに 包まれて	松波 壽子
荒れ狂う コロナを諭す 花の舞	松波 壽子
紫陽花や 集ふ大顔 水喰らふ	伊藤 白雲
大日向葵 土砂降りの中 起ち竦む	伊藤 白雲
木洩れ日の 百合の小径や 車椅子	今堀 あや
百合匂ふ 木陰の匂帳 開きぬし	今堀 あや
花を活け 見様見真似の 天地人	橋本 律雄
濃紫陽花 屋台賑はふ 町が好き	橋本 律雄
雨音を足して紫陽花今日の色	杉柳才
タンポポを握り眠る子パパの背に	杉柳才
鳳仙花 盛りてはじく 千の種	キタロー
登り来て山の岩場に花は咲く	加藤 美穂
人知れず山の岩かげ咲く百合よ	加藤 美穂
陽炎とのおぜん蔓燃え上がり	川地 としみ
ヒマワリは陽に恋してる見つめてる	川地 としみ
大輪が 微笑むやうに アマリリス	彦坂 茂光
笹百合の 首の折れたる 崖の下	彦坂 茂光
この花は何の花かと花に問い	窪田 昭
花に酔い人に酔いしれ酒に酔う	窪田 昭
大仏の 光そよがす 花楓	小笠原 堂夫
頭の上に 烏運びし ヤマレンゲ	くまごろう
得も言えぬ 花に似た蝶 亡夫なのか	くまごろう
母ひとり 暮らせる生家 柿の花	小原 あつ子
感性の 衰へにけり 合歓の花	小原 あつ子
初音聞く 疲れふつとぶ 四合目	林 石根
向日葵や 曾孫良く食べ 良く笑う	和田 鈴子
米寿間近 玻璃戸ごしの 花見かな	和田 鈴子
蝶舞いて 蜜柑の花に 羽根やすめ	三枝
三極に 会いに行きたし 真富士山	三枝
通学の 子を見守って 咲く四葩	幅 茂

明け方に 母の摘み取る 花オクラ	幅 茂
山青く ポツリポツリと 朴咲けり	岡本 順子
風うけて 蓮の葉水の 留まらず	岡本 順子
木蘭は みあげる夜空を 咲ききそう	海道
紫陽花の 光りあふるる 雨あがり	海道
化石とや メタセコイアの 青葉風	福島 好明
昼顔の 伝ふ金網 こぼれ球	福島 好明
覚王山 茶室にリンと 夏つばき	岡部 倫子
今年から 鮮やかマスク 花みたい	成瀬 美咲
朝顔の 水やりしてた 夏休み	成瀬 美咲
甲子園 球児たちが ひまわりだ	笠寺のビシちゃん
ドラゴンズ へちまみたいに のびてゆけ	笠寺のビシちゃん
閉ざされし 山茶花の庭 猫戯れる	星原 邦子
駅ピアノ 一輪差しの かすみ草	星原 邦子
カサブランカ母は米寿になりけり	山田 由美子
おだやかに過ごす日々あり 葦草	山田 由美子
昼顔の 淡紅色や 通学路	川北 康子
里山に 枸橘匂ふ 夕間暮れ	川北 康子
紫陽花や 傘カラフルに 競ひ咲く	定直 佳代子
くちなしや 彼見送りし 夜の道	定直 佳代子
群青の 沢紫陽花や 躰口	佳呼
湧き水や 池になほ濃き 蓮の花	佳呼
平和記念 慟哭しとど 黄菊満つ	紙音
さゝ百合や 「らしくぶらず」の こゝろ秘め	紙音
素嬪のステイホームや合歓の花	陽光
振花へ一段ごとの天日かな	陽光
春の花びら 広がってさいて ちっていく	都築 太一
花がとじて いてさくと ドキドキに	都築 太一
いけ花の 名前も書いて 玄関に	松久 喜市
ホームには 椿の花が よくにあう	松久 喜市
ツユクサを 真珠のごとき 露飾る	位田 仁美
水浴びの シロクマ眩し カンナ咲く	位田 仁美
我が想ひ 野菊に託す 誕生日	米持 照美
七色の 雫抱ふる 濃紫陽花	米持 照美
朝顔や 学舎の子等の 声清し	小野 薫
窓口の 優しき声や 秋桜	小野 薫

かにかくに 老いて今年も 桜かな	川崎 喜久子
紫陽花や 施設安居は 造花にて	川崎 喜久子
紫陽花や 幼な子いっぱい 公園へ	一と
春が行く 妻の生け花 道の草	一と
凄かみし 夫に供えし 白百合香	伊藤 洋子
戒明朝 寺に香りし 蓮の華	伊藤 洋子
あぢさゐや 花芽さだめぬ 剪りどころ	緒方 明博
茶の花の 強き光を 知らぬげに	緒方 明博
紫陽花や 驟雨に映える 遊歩道	木田 準一
虹見ゆる 四葩楽しむ 半夏生	木田 準一
つきみては コロナのさるを いのりつつ	石井 克己
ひまわりの 迷路を駆けて 息が合う	本多 キクエ
サフィニアを 植えて令和の 夏花壇	本多 キクエ
ランドセル あじさいよりも かしましく	直子
半夏ダコ 今年は特に 食べなくっちゃ	直子
朝顔と 遊びし妹は 明日嫁ぐ	伊藤 半一郎
揚輝荘 雨の似合ふは 紫陽花かな	伊藤 半一郎
石段に うす紅点して 散るさくら	藤原 嘉津子
野路を行き 花の道かと れんげ草	藤原 嘉津子
錦鯉 水連の花に 語りかけ	渡邊 勝子
母似の サルスベリの花 耐えていて	渡邊 勝子
年少も 卒寿も見入る 百合の園	松林 亮子
シリウスに 皇帝ダリア 空威張り	松林 亮子
東山 ケリーの花が 永遠に咲く	小笠原 堂夫
曇天に 色を差したる 花菖蒲	恵蘭
君待てば セピア色なる 水中花	恵蘭
コロナ禍や 青葉若葉に 変わりなし	岩田 幸子
コンクリを やぶり顔出す 月見草	岩田 幸子
ひまわりも 猛暑に少し 頭垂れ	小山 良實
踏まれても つゆ草可憐 生きてゆく	小山 良實
ゆりの香に コロナの憂い 忘れ去り	佐藤 成子
輝きし 金シャチ花の 雲の上	今村 圭佐
草の花 しぶとく咲けよ 頑張れよ	今村 圭佐
満開の ササユリ谷に 風立ちぬ	佳甫
口開けた 小鳥の如く 咲く紫陽花	佳甫
入日さし ハイビスカスの 朱は増せり	竹上 裕子

ラベンダー コロナにまけず ボーリング	高名 俊昭
さくらんぼ 茶豆とともに 何年も	高名 俊昭
紫陽花の舞台賑わす七変化	北野 剛
紫陽花が迷路のごとく 咲き誇り	北野 剛
花の世話 麦わら帽の 親子かな	滝 良恵
コロナ禍も 花移ろひて はや初秋	滝 良恵
濃紫陽花 ママチャリを押す 坂の町	松田 英子
沈丁花 蒟蒻問答 していたり	松田 英子
蔓伸びて カボチャの花の 先ずひとつ	秋月娘
猛暑など 物ともせぬか サルスベリ	秋月娘
向日葵の 個性溢るる 船出かな	浄司
柿落ちて 想う地球の 底力	浄司
雲の峰スワンボートで手を伸ばす	渡邊 美愛
組んだ手は蕾のごとく長崎忌	渡邊 美愛
石楠花やもう手を繋ぐ歳過ぎて	水野 大雅
コスモスのささめく方が汝の道	水野 大雅
礫の萩 揺らし駆けゆく 郵便夫	柘植 登志子
汗流し 先祖供養に ほうずきを	加藤 富江
ひまわりの 雨なし猛暑に 首が折れ	加藤 富江
紫陽花も 花枯れ侘し 驟雨かな	平野 弘
すいれんの 花に見とれて 年令忘れ	杉浦 雅代
ああじっさい 子らのアツさに 勝てぬ夏	立嶋 幹太